

舞 とうん

VOL 23



柳原あや子さん(松山市)作・昼町の午後

④ 地域づくり、わたしの役割 ⑤

- ◆一つの繭から夢はふくらむ
野村町／篠藤 恵子…………… 2
- ◆ひまわりの町からメッセージ
宇和町／兵頭智恵子…………… 4
- ◆出会い・ふれあい
中山町／中岡 千代…………… 6
- ◆本と子どものかけ橋を
伯方町／阪本 史子…………… 8

研 修 レ ポ

- ・町の風が変わった… 大和町
…………… 10

ふ れ あ い 広 場

- ・リレーでちょっとーク
松山市／松江みどり…………… 12
- 伊予三島市／岩本 利香…………… 13
- ・インフォメーション
宇和島市／田部 司…………… 14
- ・パソコン通信／TOWNたうん…………… 16

研究会議 News Letter

- ・岬十三里海道シンポジウム
八幡浜市／井上 保明…………… 17
- ・御荘湾立て干し網
御荘町／藤村 雄二…………… 20
- ◆生活文化県宣言…………… 1
- ◆愛媛県組織改正…………… 2

地域づくり わたしの役割

一つの繭から

夢はふくらむ

野村町 篠藤 恵子



「ちょっとあんだ、もうすぐ着
くで。そろそろ東京弁使わんとい
けんのォ。」

気持ちを切り替え、都会人に、
大変身するはずの機内であったが、
どうやら野村町をそのまま持ち込
みそうな、一見親子かアベックか、
はたまた同性愛者かのように見え
る二人連れ。何を隠そう私達は、
名もない「工房繭華」社員二名の
社長と副社長なのである。

高島屋本店の「日本の伝統展」
に出席する為に上京したのである。
初回、二回目と、かなりの反響が
あったので、今回はそれ以上の期
待がかかっている。

ブタ社長「よし、やせる思いで
がんばるぞ！」

ガリ副社長「ムリなんじゃあな
いっすかア。」



五月二十三日（木）

何の伝統もない私達だが、全国
で有名な伝統工芸師の皆様に見守
られながらのスタート。人・人・
人で息が詰まりそう。

五月二十四日（金）

昨年より客数は少ないが、序々
に売れている。時々やって来る外
人さんの接客にドギマギ。

「これがほしくて来たのよ。」

「昨年も買ったから今年もいた
くわ、本当にステキね。」と言っ
てくださることに励まされ、元気
になる。明日もがんばるぞ！

五月二十五日（土）

花は売れているが、立ち仕事な
ので足はむくむし、目は真っ赤。
接客の疲れが出始めている。

伝統展の前半が終わったところで
今、ホテルで筆を取っている。

この忙しさの為、原稿をことわ
るはずだったのに、文才のない頭
をひねりながら、書いているので
ある。

今回の伝統展で一番うれしかったのは、諸先輩方から多くの励ましのことをいただいたことである。たとえば、

「何十年、何百年続いている伝統にも、必ず始まりがある。繭の花も、今がその時のだから、これから努力して日本の伝統にしてお下さい。あなたの作品は素晴らしい。応援しますよ。」と。

涙が出る程うれしく、感動しました。そう言うてくださる職人さんの作品は、どれも素晴らしく、大変勉強になりました。



とても仲の良いお二人です（右が篠藤さん）

初めて繭の花と出会ったのは、六年前。何とも表現しがたい不思議な魅力に取りつかれ、それ以来研究を重ね、独自の作品を創ってきました。

大変細かな作業なので、かなりの根気と高度な技術が必要とする為、なかなか仕上がらない花を作りながら、あまりのしんきさに「誰が考えたんぞ。こげな仕事を」と、ついブツブツ。

手をぬいて簡単にしようと思ったりしていると、

「バカたれ！信用問題ぞ。日本一の名がすたるぞ。」と、互いにシリをたたき合う。毎日セッセ、セッセと蚕が糸をはくかのごとく花を作っているのである。

野村町はミルクとシルクの町。昔から繭の産地で品質は最高。私達はその繭で花を作っている。絹は高級な着物というイメージが強く、「もったいないネ。小さく切ってそんなもの作るなんて。」と言うお声もチラホラ。

カラーでお見せできないのが残念です…



繭の花は、生活必需品では決していない。しかし、繭の花を見ることで、忙しい日々の中にホッとやすらいだ気分を味わってもらえたら…。精神安定剤のような夢のある花を作り続けたいと思うのである。そして、それが「むらおこし」につながると思ったら、微力ながらもお手伝いしたいと思っています。

現在、繭華の技術者（中心的）は二人。外見も性格もまるで違うでこぼこコンビである。互いにフォローし合い、時には刺激し合い技術を高め、見る人の心に残る作品を作り続けて行きたい。

工房 繭華

☎（六六四）七二一三八八

地域づくり わたしの役割

ひまわりの町から

メッセージ

宇和町 兵頭 智恵子



をはじめ、村づくりの会員が種蒔きをしたのが、一年目の事です。

花いっぱい運動の一環として呼びかけて四年目、今年の夏は、宇和町の田んぼに合計五ヘクタールのひまわりが咲きそうです。

四年前、公民館がボランティアに呼びかけ、老人クラブを中心に沢山の種子を集めたのが始まりです。空地や川土手等へ春先に蒔いて咲かせたのがきっかけで、「夏にも何か咲かせたいな」と思ってたそんなある日の事、神野久地区と称する五つの集落と、精神薄弱者施設からなる「村づくり協議会」の総会で取り上げられたのがひまわりでした。農協を通じて北連農協から五反分の種子を購入し施設「希望の森」の園生や地域の老人

この夏、なんと直径三センチもあるひまわりが

咲きほこり、連日ひまわり見物の人達が殺到しました。減反に泣く農家の人達にも少し明るい希望のようなものが芽ばえたようでした。たくさんの人が集まってくれる、

色々な人達に喜んでもらえる、そんなひまわりを作りたい！と思いました。そこで、ひまわりについて色々と調べた所、食物油として素晴らしい成分が有る事がわかりました。早速、公民館では、普及所等と相談。やがて収穫する運びとなったのです。真夏の太陽と健康をイメージするひまわりが、健康食品として売れるとは、ほとんどの人が考えつかなかったと思います。

「無農薬」（有機肥料）ミネラル豊富な一〇〇%の食物油は、施設の子供達の手によって、アツという間に売れてしまいました。当然の事、村づくり協議会と施設の両者を結びつないだ公民館も更に勢いがつきました。

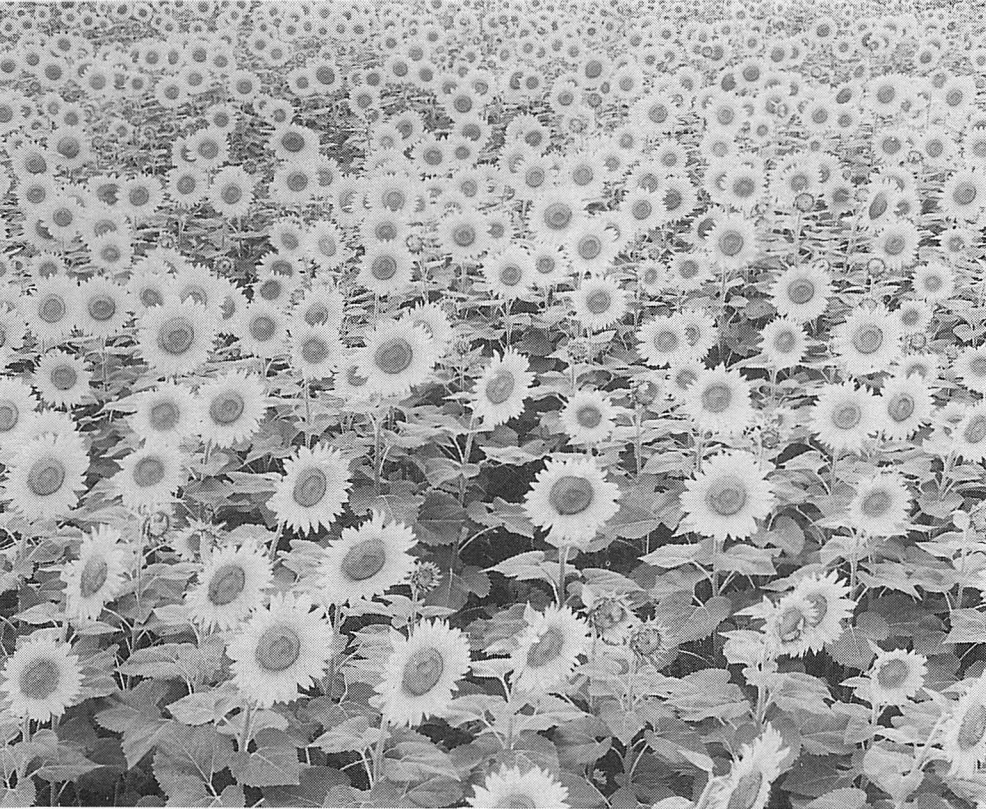
二年目は、栽培面積は三倍となり、「ひまわりまつり」「写真コンテスト」等、一大イベントなどが公民館の手によって企画され、昨年にも増して大盛況となりました。現在、農家でも大変厄介ものとされています減反に光明を見出すこととなったのです。

ひまわりは、植付後はあまり手もかからず収穫出来ますし、雄大な花びらは多くの人を集める結果となりました。今年は休耕田を利用して、老人クラブ・壮年会・婦人会等と呼びかけ、グループでの花いっぱい運動に協力をお願いしたところ。もちろん花をながめて楽しむだけでは、農家の収入にはなりませんし、わずかな転作奨励金等では、生活の足しにもなりません。花を楽しんだ後は、収穫

をするのです。一反あたり、二〇〇キログラムの収穫は見込めるのです。

今年は宇和町一円に、合計五ヘクタールのひまわりが夏には咲きます。ちょっとした公民館の呼びかけで結んだひまわりの輪は、今、村づくりの特産品・施設の温いひまわり食油として売り出そうとしています。





私の勤める公民館では、花いっぱい運動から村づくりへと、そして福祉施設への掛け橋役としてがんばっています。

「好きです宇和町」

この言葉をモットーに更にひまわり食油の産品づくりに、大きな夢を持ちながら、主事さん達の良きパートナーとして、頑張っています。

“素晴らしい” の一言

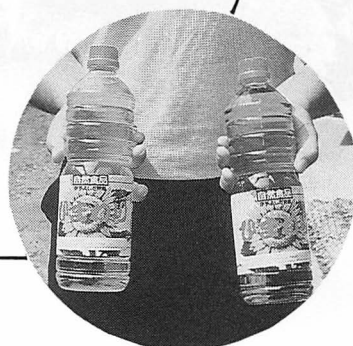
宇和町のひまわり畑です。

ひまわり油の特性

必須脂肪酸であるリノール酸（コレステロール低下に有効な生理作用がある）とビタミンEの含量の高いことです。

必須脂肪酸やビタミンEは、成長に不可欠で更に老化現象や成人病を防ぐ働きがあります。

出来れば余り加熱せずに用いるドレッシングやマリネー、サラダ等に使用するほうが良いと思われます。



これが、“ひまわり油” DESU。

地域づくり
わたしの役割

出逢い・ふれあい

中山町 中岡 千代

われらがメンバーのリーダーは、

まことにウィットに富んだ天才と
発見。子無しの彼女は犬の大好き。

最近飼いはじめた子犬の

名前が、

“クーネ

ル”。何と



あかぬけのした名前？。哲学者か
偉い人にそんな人いたのかなあー
と思えば、何と喰う寝るからだそ
うである。メンバーの今の名前も
名づけ親？、何事にも一寸出しゃ
ばつてと言うので、“デ・シャー
バリ”。この時も私はもとの意味
を知らず大満足なものでした。

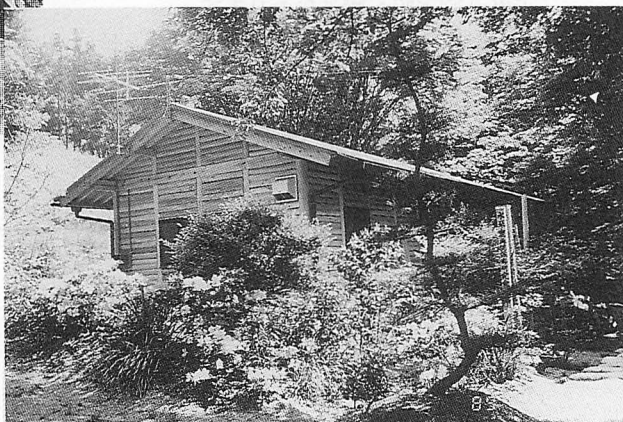
私達を何かやろうと誘ったのも
彼女で、四人それぞれを見ている
と、叱られるかもしれないけれど
「フォアボール」と思っている。

でもフォアボールも一壘へ進める
ではないか。無理せず四人の出逢
いを大切にして、年々多くなつて
いる独居老人対象のボランティア
活動をやっております。



最初に始めたのが春と秋のお弁当
作り。材料は各自あるものは全部
持参、四人で町内全部はとうてい
及ばずでしたが、それでも四十個
余りの数になっていました。その
うちに社会福祉協議会が発足して、
ひき受けていただきメンバーの一
員としてお手伝いする側となりま
した。

どうぞお元気でと始めた年賀状
は、暑中見舞も年々増えて、もう
百通近くになりました。くじつき
となり、回を重ねているうちに、
ささやかながら“はずれ”の景品
も添える事となりました。



耳よりな話?、エッ、水琴窟すいこんくがあるの?「心で聴き」「心で応える」日本の音、二つも自分の庭に

作っていられるのとり暮しの方がおられるとは……。是非みんなで聴きに行こう。でもただ行くだけではとアイディアが湧き、それではお弁当持参で近所の独居の方々と交えてのお花見会でもと発展して、桜の花の頃と計画していたのが葉桜のもととなりました。お訪ねしたIさんのお家は、はるかに瀬戸の海をのぞむ場所に木の香がうろくへうす風の小さなお家で、窓際に置かれたベッドからの眺めもよく、蔵書に囲まれ、書画に自らも親しまれ、花木に囲まれた庭に作られた二つの水琴窟の音に浸るのだと教えられました。

葉桜の下、やっぱり少々はお酒もととなり、あのこと、このことと話ははずみ、皆さん大変うち解けられて歌う人もあり、民生委員のNさんは短冊片手に達筆で、

「葉桜も水琴窟の音に浸り」とさうさら。これが第一回目の地区訪問となり、目下第二回目の地区訪問を計画中です。

生きがい作りの水墨画教室も、お孫さんのお嫁さんの送り迎えでの参加者もあり、平均年齢も〇才。ほがらかで生徒をその気にさせていただく先生の支援を得て、一年余りと回を重ね、おそろおそろ開きました作品展も、まあまあの評で終了。桜林を訪ねての遠足も終わって、会員一同いい仲間となりました。幸いなことに、山野草に恵まれ、下手ながら画材には不自由いたしません。

一年程前に近所の独居の方が、一人暮らしがかなわなくなりI市の息子さんのところに行く事になりました。男だから、さすがに涙は流されませんでした。日頃無口な人がひと言「何処にも行きたい事はないのぞ」と、見送る私に云われました。この言葉は忘れられません。

この方達は暑いも寒いも、何事も一から十まで一人でひき受けて暮さなければなりません。狭くても、不便でも、皆さんは「今いるところで生涯を終えたい。」と願っています。すばらしい自然があり、ゆったりとした生活のリズム、私もそう願っている一人です。住んでいる者みんなの課題と思っています。

人生の折り返し点をふり返りみるようになり、今までみなさんよりいただいたものを、一つずつでもお返ししたいと思うこの頃です。



地域づくり わたしの役割

本と子どものかけ橋を…

伯方町 阪本 史子

絵本の好きな主婦、十名が集まって「どんぐりの会」を発足させたのは、二年前の秋、ちょうど、どんぐり拾いの時期でした。月一回、土曜日の午後、幼児・児童を集めて絵本の読み聞かせを行っています。

町かどに貼られたポスターを見て、集まってきた子どもたちの前で、季節に応じたものや、思い入れの絵本を読みます。毎回五、六冊を読みますが、時には歌やゲーム・手遊びを交えて気分転換をはかります。一時間を子供たちに十分楽しんでもらえるように、内容の充実が心がかけたと思っています。

一人でも多くの子どもたちが、いい絵本と出会い、読書の好きな子どもになって欲しいと願っています。読書の原点である絵本には、子どもたちの夢がいっぱい詰まっているように思います。夜寝る前に、母親の膝で絵本を読んでもらって眠りにつく……そんな風にして育つ子どもの心には、お金で買うことのできない大切な宝物が貯え

られていきます。私たちの活動を通して、各家庭で絵本の読み聞かせをするおかあさんが増えることを願っています。

今まで

“人のため”に活動しているように書いてきましたが、

本当のところは、みんなが、ワイワイガヤガヤと楽しみな

ながら活動するのが好き……というのが本音です。活動を通して、いろいろな人と出会うことができるのが、とても幸せです。



“どんぐりの会”のみなさんです。

(右はしが阪本さん)

五月・十二月には、それぞれ「子供の目」、「クリスマス」のイベントの要素も加えて会を盛り上げてきました。今年は「七夕」の

行事を計画しています。

昨年の五月には、模造紙大の大型絵本を作成し、子供たちに見せ

てあげました。「そろそろのたね」の絵本をそのまま大きく拡大して、「私、絵を書く人」「私、色塗る人」と、それぞれ得意の分野を受け持ち、一ヶ月近くかかって仕上げました。いつもの小さな絵本に比べて、大きいので迫力あるものになりました。絵本作成は、和気あいあいのうちに進められ、メンバーの楽しい思い出の一つになっています。その時には、普段より多く、こども七十名、おとな十名、計八十名も集まってくれ、その多さに、私たちはびっくり、嬉しい悲鳴をあげたことです。プログラムの最後には、みんなで新聞紙の兜を作り、にぎやかに会を閉じました。

十二月には、クリスマスツリーを飾り、OHPを使って「ぐりとぐらのおきやくさま」を写し出しました。暗くした部屋の中で写し出される「ぐりとぐら」の絵はみんなの心をひきつけるのに効果があつたように思います。ささやかなプレゼントを手にして帰っていった子どもたちの顔が今でも浮んできます。

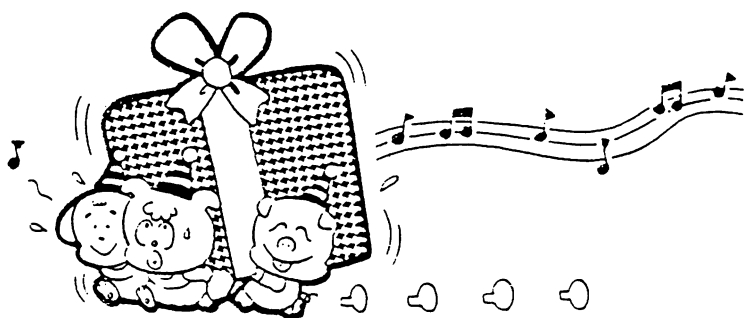
私たちは、絵本の読み聞かせの他にいろいろな活動にも取り組んできました。その一つとして、絵本についての講演会を開きました。広島県から講師を招き「本と子供のかけ橋に」との演題で、三十八名のお母さんが集まってお話を聞き、学びの一時を過しました。日常生活において、本なしでも生きていけるけれども、本を読むことによって「よりよく」生きることができると。活字を言葉に変え、生きたものとして子供たちに伝えていく役割——即ち「本と子どものかけ橋」——を母親は、担うことができるのではないかと、などと数冊の絵本を手にとってわかりやすく話して下さいました。

公民館の委託を受けて、図書の整理をさせていただいたり、希望図書を購入してもらったり、図書室の書架の配置を変えさせてもらったりしました。絵本の読み聞かせのできるスペースもでき、それ以後は、図書室で絵本の読み聞かせを行っています。

去る五月十八日には、人形劇団「飛行船」をこの島によんで、「楽しいムーミン一家」の人形劇を子どもたちに楽しんでもらうことができました。素人とは思えないもので、人形劇公演の主催が、どんなに大変なことであるか知る由もなく手をつけてしまいました。試行錯誤の連続で本当に出来るのかしらと不安になりつつも、幸いに町の教育委員会の後援を得て、無事乗りきる事ができました。伯方島だけでなく、大三島、大島からも団体や個人で、多くの子どもたちが集まってくれ、十分に楽しんでくれたようで、とても嬉しく思いました。終った後の充実した疲労感は、心地よいものでした。

もともと絵本が好きで集まったグループですから、今後は、読み聞かせの活動に加えて、絵本を学ぶ機会を作り、積極的に県内・県外へと出かけて行き、研修の場を広げていきたいと思っています。

伯方島のあちこちで、私たちのようなグループができ、地道な活動を通じ、より多くの子どもたちが本に結びつける働きができれば、すばらしいと思います。そして、ゆくゆくは、いつでも好きな本が手にとれる充実した図書館が、この伯方町にできればいいなあと、私たちの夢はどこまでも広がっていきます。



研修レポ

町の風が変わった……大和町

（財）愛媛県まちづくり総合センター

国田 敦彦

澄み切った五月晴れの中、JA S七九五便は力強いエンジン音を響かせながら、滑るように新潟空港へ着陸した。途中、飛行機の窓から見えた見渡すかぎりの水田は、既に田植えも終わり、米どころ新潟の風物詩をかし出していった。

我々は、五月十三日から十六日まで新潟県の関川村、大和町、安塚町を訪れたが、その中で今回は、「健康やまとぴあ」というユニークな企画でまちづくりを実践している大和町を紹介してみたい。

新潟市から上越新幹線で南下すること約四十分。「元総理」の銅像が立つ浦佐駅に降り立つと、そこが大和町である。

面積一三〇・九一㎢、世帯数約三、六〇〇戸、人口約一万五千人の大和町は、東に越後三山（八海山、駒ヶ岳、中ノ岳）を仰ぎ、町の中心を信濃川の支流である魚野川が流れる盆地の町である。冬期には積雪三メートルを越えることのある豪雪地帯であるが、四季の変化が美しく自然に恵まれており、新潟県でも屈指の米どころ（ここで食べたコシヒカリは、キラキラと輝いていて本当においしかった!!）として知られている。

◇コミュニティホール「さわらび」

「健康やまとぴあ」の町として注目される大和町であるが、大和町のまちづくりを語る際に忘れてはならないのが、住民手づくりの

コミュニティホール「さわらび」である。住民の声を無視してコミュニティホールを建設しようとしていた行政に対して立ち上がったのが今回お会いした大和町役場の南雲権治さんや、ゆきぎに大和総合病院の湯本篤さんたちであった。

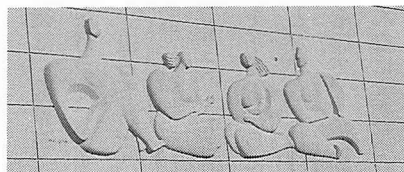
彼らは意欲があれば、だれでもいつでも参加できるという「うるおいのある町づくり委員会」を結成し、そこでコミュニティホールのどんちようや壁面レリーフ、愛称、運営方法などについて話し合った。愛称については公募により

「さわらび」と命名された。壁面レリーフについては地元出身の新進芸術家に依頼し、委員会の意見も取り入れて作成した。

また、どんちようについても一般の公募を行い、一五九点の中から地元保育所の保母さんと二十八人の園児の描いた「地球と星のある宇宙」と題する作品が採用された。そののびのびと描かれたデザインや色彩は多くの人に夢を与え、また感動を与えた。実際に私も、このどんちようを目の前にして感動を覚えずにはいられなかった。

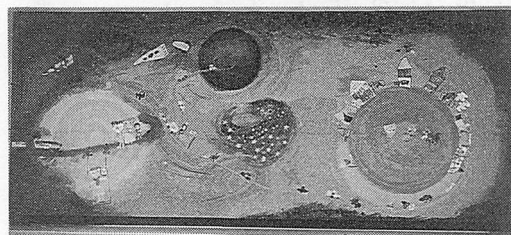
「まちづくり、むらおこしは感動から始まる」という話を聞いたことがあるが、子どもたちの描いたどんちようが、まさにまちづくりの一翼を担っていたのである。

「うるおいのある町づくり委員会」は「さわらび」の完成により「発展的な解散」（南雲さん談）をしたけれども、ここで培われた精神は他の地区で作られた



▲ 壁面レリーフ

▼ どんちよう「地球と星のある宇宙」



コミュニティホール「まほろば」

へも受け継がれ、町の人々の思いがいっぱい詰まったコミュニティホールが完成したのである。

◇健康やまとびあ

前出の南雲さんたちのよき相談相手であり、また町の人にとってもなくてはならない人が、今回南雲さんたちと共に、お会いした黒岩卓夫さん、秩子（ちずこ）さん夫妻である。

黒岩卓夫さんは、「ゆきぐに大和総合病院」の院長として、健康やまとびあを手がけた人物である。

「健康やまとびあ」とは、「町ぐ

るみであなたの主治医を引き受けます」

というキャッ

チフレーズで、

ふるさとを持

たない都会の

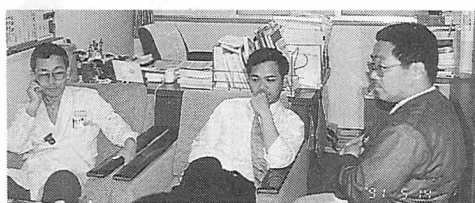
人に、二泊三

日で心身のリ

フレッシュを

してもらおう

と四人の主治



黒岩卓夫さん

湯本篤さん

南雲権治さん

医が世話をするというもの。

◇四人の主治医と役割とは

まず、ゆきぐに大和総合病院が人間ドックや栄養相談などを受け持ち、薬草園で薬草に関する実習を行う。また、浦佐温泉では郷土食豊かな健康的な食事と生薬湯を提供し、有機農法「土の会」では有機農産物を提供するというもの。

「やまとびあは、医食農を通じて、都会の人と交流を行い、地域の活性化を計ろうとするものでありまた、経済的にもそれぞれが、潤ってもらおうというものである。

しかしながら、やまとびあがユニークなのは、まちづくり「医」が組み込まれていること」と黒岩卓夫さんはいう。また、「やまとびあは、まわりから見れば、まちづくりのひととつだに見えるかもしれないが、我々は医療とか福祉とか、自分の仕事を普通にやっているだけ」ともいう。

「これがまちづくりだ」と肩肘張って、するのではなく、やまとびあのように自然に出てくるのが本当のまちづくりではないだろうか。

◇大地塾

話は前後するが、この大和町に来て最初にお話を伺ったのは、黒岩秩子さんであった。

「思っていることと言っていることが同じ」という秩子さんの話は、実践が伴ったものであり、次から次へと色々な話題がとび出し、教えられることもたくさんあったが、

その根底に流れる思いは一つであったように思う。それは常に弱い者の立場に立ち、思いやりを持って人に接するという点であった。弱い者とは障害者であり、また、子どもたちである。障害者の人たちの立場に立って「一番生活しにくい人が生活しやすい町になれば、それはだれにとっても暮らしやすい町になる」という考えには感銘を受けた。

秩子さんは以前、高校教師であったが、「教育というものを逆登ってみたい」と、また、「教える・教えられるという関係がいやになり」保母になったのであるが、昨年、十九年間務めた保母をやめ、その後、自分の思いを实践する場

として「大地塾」を開いている。

「大地塾」は、夜は普通の塾でもあるが、地域の中で障害者や登校拒否などの悩みを持っている子どもとその親のよき相談相手となる場でもあり、地域に根ざしたまちづくり（仲間づくり）の場であるように思う。

最後に秩子さんの話の中で、私が考えさせられたことばを紹介したい。「迷惑をかけない」ということは、限りなく人と人との、離れていく関係であり、迷惑はかけ合うべきである。」

——〇——〇——

二十年前に、見知らぬ土地大和町に赴任し、町のためにと身を粉にして働いてこられた、黒岩御夫妻であるが、その町に対する情熱は、将来の日本のためにと思って学生運動をされていた時代と比較しても、いささかの衰えもなかったのではないだろうか。

日本で革命をおこすことはできなかったが、越後の一つの町に革命をおこしたのである!?

市場のある風景……

松山市 松江 みどり

市場が好きだ。

狭い通りをはさんで様々な店が

軒を連らね、ときには道路まで領

土拡張している。売り手と買い手

のかけ引き、混雑、喧騒も活気

ある証拠。どこからお腹の虫を

刺激する匂いも漂ってくる。そこ

ではクルマが肩身を狭くし、人間

サマや自転車も堂々たる主役だ。

そんな市場をぶらつくのが、と

ても好きだ。

松山でいえば、土橋とか萱町商

店街あたり。シュンの安い物をね

らい、魚の名前を教わったり、素

材といっしょに料理法も仕入れて

くるのが、主婦である私の楽しみ。

デパートやスーパーの売場からは

失われつつある温かい人と人との

ふれ合いが、まだここには残って

いる。

旅に出ても、なぜか澄まし顔の

目抜き通りよりも、裏町のごみご

みした商店街や市場に足が向いて

しまう。その町の匂い、そこに住

む人びとの息づかいが、手にとる
ように感じられるからだ。

中国は桂林でのこと。戦後の焼

跡のバラックを思わせるような、

テント張りの店がごちゃごちゃ並

ぶ市場をのぞいたことがある。

町の人の旺盛な食欲を想像させ

るような食料品の山が、雑然と並

ぶ。

一山いくらで買い求めたリング

は、色も形も貧相だったが、食べ

てみると味は自然そのものの、めっ

ぽう美味しかった。

スポンやニワトリが、あえな

い最期を遂げる瞬間も見てしまっ

た。さすがに、ブタの頭がうらめ

しそうにこちらを見ていた店先だ

けは、早足で通り過ぎたけれど。

市場のはずれで、黙々と角材を

削っている男がいた。足を止める

人もいない。後で聞くとベッドを

作って売っていたらしい。でもお

客は、どうやってあんな大きな物

を持って帰るのだろうか。

みやびやかな古都・京都でも、

一步裏へ廻ると、わい雑な庶民の

顔を見せる通りに出会う。例えば

食品店がずらっと並ぶ錦小路とか、

南区の市場街とか……。

高知名物、日曜市は何回訪れて

も楽しい。今日は何にも買わない

ゾ、と決意していても、二、三十

メートルも歩くと、いつのまにか

重いビニール袋を両手に提げてい

たりする。

「もうちょっと、まからんの？」

「ようけ勉強しちよるきに」

店番のおばちゃんとのたわいな

いやとりも、買物の楽しみを倍

加させる。モノに心がプラスされ

るのは、こんな時だ。

惜しむらくは、我が松山にそん

な名物市がなく、また庶民的な市

場も少なくなってきたことだ。

気候温暖で自然と美味しい食べ

物に恵まれた松山は、住み易さナ

ンバーワンと誰もが自慢するけれ

ど、それに甘え過ぎていないか。

自然も人の心も、時代の流れに

まかせ放っておくと、荒廃してい

くのではないか、老婆心が時おり

もたげるのであります。



次回は、松山市の岡崎郁佳さんです。



今日のよき日に……

伊予三島市 岩 本 利 香

今年に入って、私の回りの女の子達が、バタバタとかたづいていった。中にはこっそりと事を進めて、いきなり披露宴の招待状を送り届けてくる、という不屈き者もいたりする。そういう輩は、私達「もうしばらく独身組」の集中攻撃の的になってしまう。

しかし彼女達は、大きくリードというバリアの中に鎮座し、こちらの罵詈雑言は全く気にならない様子で、ゆったりと頬笑んでいる。

そして今年は年内挙式予定というのも数名いて、これからも増えそうな予感だ。そんな情報が入るたびに、もうしばらく組は、やせがまんぎみの悪態をつき、互いに励まし合うのである。こんなだから、しぜん披露宴に出席する回数も多くなる。だが、これは！と感動させられる異色の披露宴、というのにはまだ出席したことがない。学生時代の友人は、各地方にいて、それらにも出席したがあまり

変わりばえしなかった。

挨拶、ケーキカット、お色直し、カラオケ、ちよっとした芸、花束贈呈から泣きにもってくる、という筋書きは、全国どこへ行っても、揺らぐことのない王道であるようだ。だからといって、私は今日の披露宴のあり方を批判しようというのではない。それはそれで、本人と両家が納得していればいいのだ。元来、お調子者で楽家の私は、どんなところでもおもしろみを見つけて楽しんでしまえる。ましてや披露宴などは、大勢の人が集まっているし、大金がかかっている（私の財布からも福沢諭吉が数人参加している）のだから、これを楽しまないのは、もったいない。私は不思議に、どの披露宴でも何がしかの役につかされる。スピーチ、歌、受付などだが、これと一緒に出席している友人よりも、ずっと写真の数が多く、後々までうれしかったりする。それに私達

独身組は、同じ新婦友人でも既婚組より新郎友人からの扱いが、だんぜんいいことが多い。

それから、本人はいたって真面目にスピーチされているのに、妙に笑いが吹き上げてくることがある。こんなことは、宴の最初から楽しませてもらって、その後にはずみがつくのは言うまでもない。お決まりの誓いのキスなども、下を向いて頬を染めイヤイヤのふりをする新婦の姿に「大うそつき」などと、こちらで言い合うのもおもしろい。両家を見回して「うわあ、みんなそっくり」と、感激させられるのも楽しい。



別の地方での披露宴などは、知っている人がいない、という気安さからこちら大胆になり、豚の鼻や、スプーンを二本使ったウルトラマンの顔などを新婦に送ったりする。楚々としていた新婦を、笑ってはいけない時のつばに引き

ずり込んで、二次会でしかられたいするの、とてもおもしろい。まあ、ここには書ききれないほど披露宴には楽しいことがたくさんある。この秋に招待されている披露宴のことを思うと、今からおどろいてしまいそうな私だ。

次は、商店街活性化のため日々東奔西走されている加地昭宣さんです。



……リレーでちょっとク……

……リレーでちょっとク……

宇和島市から

インフォメーション

今回は、愛鳥週間の一環として、「宇和島バードマップ」を制作された田部司さん（宇和島市）からのお便りです。

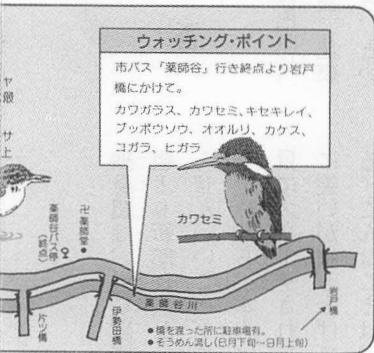
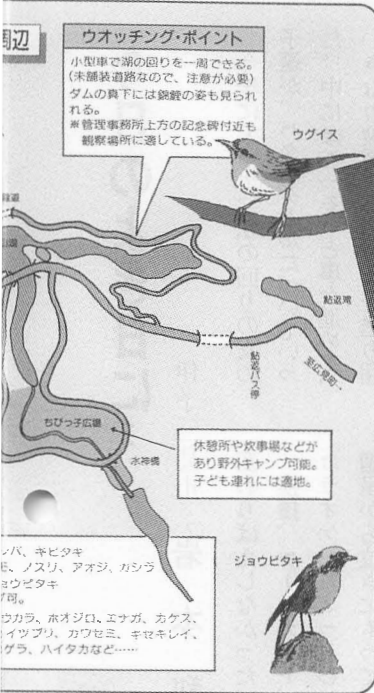
宇和島においても、近年、川や海の汚れに伴い、子供の頃泳いだり遊んだりした場所が失われ、トンボやホタル等もあまり見られなくなっています。又、野鳥をはじめ野生生物の生活が脅かされ、数も減少している現在、自然の素晴らしさを見直し、美しい宇和島をもう一度蘇らせ再発見する「ミニトリップ」の手引きにでもなれと企画しました。

泳いでいたのをよく目にしたものでしたが、これを機会に、川を利用した遊歩道のような施設、又、野鳥たちが住みやすい環境を取り戻し、さらにより良い「野鳥の楽園」をつくっていったらと思います。

自然をこよなく愛されている方に配布いたしております。ご一報下さい。

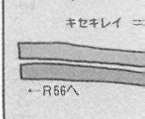
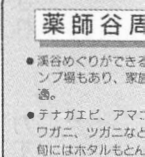
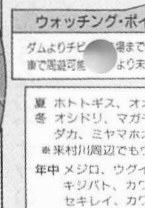
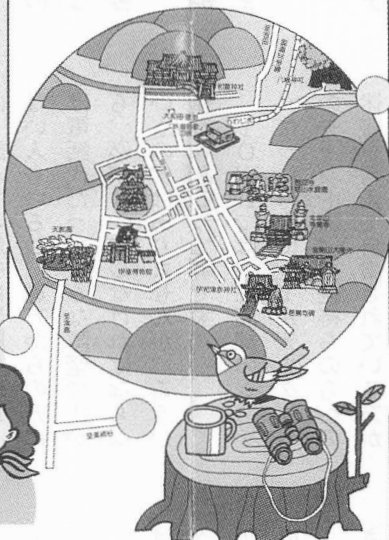
連絡先
千七九八 愛媛県宇和島市
中央町二一四一十二

田部 司
(〇八九五)二五〇六九一



宇和島バードマップ

〔野鳥地図〕



宇和島で観察できる野鳥

①体の大きさ ②色の特徴 ③鳴き声



●コサギ (サギ科)

①和センヂ
全身白黒色、くちば
黒く、足も黒いが
だけ黄色。
②グワァーブフアー
「クエーツ」



●カワセ三(カワセ三科)

①7センチ
②黒がコバルトブルー
③「ビッビッ」「ビーツ」



●オシドリ (カンカモ科)

①約6センチ
②顔はオレンジ色と緑色
髪はうす茶色
③「ウィー」「グワン」
(犬に似た声)
④冬の方が見やすい



●カイツブリ

③26センチ
花葉はうす茶色。冬は
うすい色になる。
④「ピッ」「ピリリ」
「オリオリ」とも動く。



●シジュウカラ

④4.5センチ 容積が
ほかが多い。胸にネ
イの形の深い溝が
あさえる西は「ツ
ーッッピー」地鳴
と「ジュウジュウ」



●ヒレンジャク

(ヒレンジャク)

① ヒレンセンテツ
② 花柄のある深紅色
③ 「チリリリリ」
あるいは「チリッチリ」
④ 一花に多数の花弁



●アオサギ (サギ科)

①Xのソデ
②全身黒くを模した
い灰色。
③「クエークエー」
「アークアーク」



●ササゴイ (ササ)

①アセチルサリチル酸は
色、臭気はいくつ
あるか。香「キ
キヨー、キユーキ



●エナガ(エナガ科)

①12.5センチを白とくっせりと色分けしており、肩や腰、膝、下地綿などにはブドウ色がある。☆「ツッチッ」「チー



●ヒヨドリ(ヒヨドリ)

② 27.5センチ
③ 髪は灰色、頬は
るい灰色、背は
は薄灰色
④ 「ピーコ」「ピーコ」
と、ささやく声



キセキレイ (セ)

④20センチ
の黄色の鳥。新産は
産卵は黄色
⑤「ビビッ」と二連音
えする時は「ビビ
と」ツィツィツィ



●キジバトの生態

④全身ピンク色を
不思議な灰色。背
には茶色と黒色の
らがある。
⑤「スーパースター」

Town タウン

パソコン通信ネットワーク

広げましょう ヒューマン ネットワーク

Vol. 17



えひめコンピューターコミュニケーションクラブ

知らないよりは、知ってる方が
より楽くなるECCの操作。
その2です。

今回も、マニュアルに書いてあ
る操縦法を裏側から見たものを、
いくつか並べてみました。

◆◆◆◆◆

住民課のオプションの中には、
チャットON/OFFというもの
があります。チャットというの
は二人以上の会員さんで、同時
に書きあうというものです。

電話代というものがあ
りますから強くお勧めする
ものではありませんが、例
えばメールを使って、
返事を要する内容を相手
方に送った場合、先方
が一日に一度しかア
クセスしない場合には、
返事を確

認するのに最低でも丸二日間か
つてしまいます。

もし、オンラインに相手がい
るのが確認されて、(確認の仕方は、
後述します。)チャットがオンなら、
即答をもらうことも可能です。

そういうのは苦手という人もい
れば、読んでも最中に邪魔されたく
ない人もいるし、遠方からの方
には電話代だって大きな障壁です
から、必ずオンにしなければなら
ないものではありませんが、こ
ういうものもあるって事です。

TOWNでは、三回線のシス
テムだった時代にゴールデンタイ
ムのチャットは、接続待ちの方
への迷惑を考えて自粛されている
方が多いようなのでオフの設定を
され

ている方が多いのですが、好み
にさへ合うのなら、今のシス
テムでは、遠慮はいりませんよ。

◆◆◆◆◆

さあ、オンに設定していたら、
他の方から誘われました。最初
はあわててしまって、どうし
ようと気ばかり焦るものです。
今読んでいる(書き込み中
には、オンの設定をしていても
オフになります。)MSGが
終わる次第、0(ゼロ)、
を入力してください。これで、
一気にトップメニューに戻り
ます。

ここで6を選び、チャット
ムでは、3を選べばもうそこ
は、チャット村!

終了は行の先頭で半角のピ
リオドです。

◆◆◆◆◆

では、今誰がいるのかを知る
には、どうすれば良いか説明
します。トップメニューから
6を選んで下さい。そこで、
1が今誰がいるのかを知る
コマンドです。

申し込むときには、2を選
んでさらに申し込む方のID
番号を入力すれば、後は3
で先にチャット

村に入っているのがマナー
です。

チャット村の中にいる時に、
呼びかけた相手がちゃんとい
るかどうかわかるのに、い
ちいちチャットメニューに
戻ったりしなくても半角の
(大文字小文字は問わない)
Wを入力してやると、チャ
ットメニューで1を入力した
のと同じ効果が得られます。
これは、既にチャットをし
ている最中、今はかに誰が
いるのか調べて調べる時に
も使うことが出来ます。

◆◆◆◆◆

相手なんかいないときにチャ
ット村に入ったりしても、シ
ステムには何の影響もあ
りませんから、試しに探検
しておくのもおもしろい
かも知れません。

◆◆◆◆◆

同時に会話をスムーズに進
めるには、結構色々なテク
ニックを要するものでは
ありますが、ID番号の
若い順に発言するのが基本
だと押さえておけば、同
じTOWNの仲間どうし
何とかなるものです。

ボードに記録が残らない分、
案外貴重な話が聞けるかも
よ!?

ふるさと
再発見

海道シンポジウム

十二里いもの会

井上 保明

メロディーラインの開通で、日本一長い十三里佐田岬半島も急激に変貌しつづけている。その半島を視点を變えてもう一度見直そうと、ふるさと再発見を呼び掛ける〈十三里いもの会〉が中心となつて五月十八・十九の両日、四十人以上の参加者を得てシンポジウムを開催した。

我町のお国自慢

五月十八日(土)、三崎町農協二階にて、菊池功・三崎町長のあいさつからシンポはスタートした。プログラムは「我町のお国自慢」に進行。

〈三瓶町〉からは、町の広報担当の三好誠子さんの朝立に伝わる朝日文楽の紹介。

〈八幡浜市〉からの自慢話は、ライト兄弟より十二年も前に飛行機の原理を発明した二宮忠八翁の

紹介。

〈保内町〉の自慢話は、何といても昨年新築オープン、今年も五月末に営業を始めたばかりの平家谷のそうめん流し。もうひとつは、保内町磯崎生まれのシーボルトの高弟であつた蘭方医二宮敬作。

〈伊方町〉は、古くは酒づくりに従事した人々の町として有名。伊方杜氏は、享和年間(一八〇一〜一八〇四)上浮穴郡の久万地方にろうをしばりに行った者が丹波杜氏の指導を受けたのが始まりと伝わっている。

〈瀬戸町〉の最近の自慢といえば、今春お目見えしたばかりのジャンボ風車、日本国内では長崎、鹿児島につづいて三機目というジャンボ風力発電機。高さ四十四メートル、翼の長さ直径二十八メートル、発電能力百キロワットというから、ざっと計算すれば一般家庭百戸分の年間電力がまかなえる計算になる。

最後に〈三崎町〉の自慢話は四国の最西端にふさわしいグルメの

話。ここは、新鮮な魚貝類がねむる宝の海にかこまれている。さざえ、あわび、とこぶし、うに、伊勢えびと…海の幸を、口にしてみると、鮮度が一番というのがよくわかる。採りたては、とにかくおいしい。しかもその採りたての海の幸を三崎の景勝の中で口にするこれ最高。夜なべ談義の会場ともなった、五月にオープンしたばかりの物産センター「漁師物語」のレストランでそうした三崎の味が気軽に食べられるようになったのはこれまたうれしい。



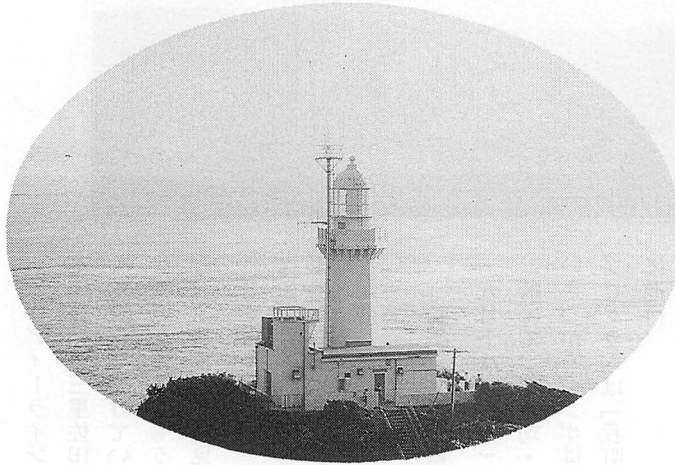
〈我町のお国自慢〉

三瓶町、朝日文楽、です——

佐田岬燈台

ウオッチング

夕日に輝く佐田岬燈台ウオッチング。
JR八幡浜市駅前からだ、と



四国の最西端

「佐田岬燈台」

航を図るために大正七年に建てられた。昭和六十二年に全線開通となったメロディーラインのランドマークでもあり、中四国全域、それ

安全運転で一時間半あれば充分の道のり、行ってみると案外近いのが四国の最西端の佐田岬燈台。この燈台は、豊予海峡の安全な運

に九州からも訪れる人が多い。特に夕日に浮かぶ燈台、そしてとりがおりたところに、点滅する光のシルエットは何ともいえない。

岬十三里

海上ウオッチング

五月十九日（日）早朝、宿となった四国最西端の民宿「大岩」を出発。

本日のメインは、海上からのウオッチング、メロディーラインの開通するまでの交通網は、海上交通が中心であったという半島ではあるけれど、今や海上から半島の全域を間近に見たことのある人は、そんなに多くはいない。大島行きの定期船「たいゆう丸」を今日のためにチャーターし、四十数名が三崎町井野浦港より出航。二十分もしないうちに梶谷鼻へ到着する。黒いゴツゴツした大きな岩がむき出し。その岩場で、海士（あまし）がもぐり、漁船が岩をとりかこむようにして漁をしている。陸からは見れない漁師の暮らしぶりをうかがうことができる。出発して海路を三十分ばかりで早くも、瀬戸町大久に到着。大久は、半島でも特に長く延びた砂浜。その全長は、二キロに及ぶ。古くはこの砂浜

に牛が放牧されていた。その牛は、今は瀬戸町の高茂地区で約三百頭も放牧されている。大久の海岸で地元の若い主婦たちが鯛飯を今日のために特別にごちそうしてくれる。これがまたグー、レストランでは味わうことのできない味は、今や貴重。昼食をすませ、さらに半島を川之石方面に向かう、十数分で、塩成の海上に到着。堀切り大橋、レストラン風車、ジャンボ風車が見えてくる。海上よりその風景を見るのは、だれもが初めて、カメラのシャッターをおもわず七八枚きる。昨夜の深夜におよぶ夜なべ談義の疲れがでてきたのか、慣れない船旅のためか多くの参加者がウトウトしはじめる。船は、昨年プールが設置された伊方町のコーストMUR O・大浜、そして川之石港へすべるようにして到着。船に一度乗ってしまうと、あっけない一時間ではあるけれど、驚きばかりの一時間であった。

海道シンポが NHKで全国放送

下船した参加者一行は、ポツポツ降り出した小雨の中、保内町の町並をウォッチング、かつては、八幡浜より盛えた古き良き時代のおもかげをのこす建物が、驚くほどある。屋根瓦に㊦マークのある旧郵便局のけしや荘、屋根瓦にクロスマークのあるキリスト教会、今も現役の愛媛蚕種㊦：旧日進館、昭和八年架設の美名瀬橋、保内の町並に花をそえる旧白石紡績接待



参加者全員で一ハイ、チーズ

パチ

館の川之石ドレスメーカー専門学校などを、見て歩くエキゾチックな保内町の町並ウォッチングに全員が感嘆！一泊二日の感想はと、伊方から参加した青年に声をかけると『遊びに行くのは松山方面しか考えなかったけど、半島にもいろんなものがあるのに驚いた』と素直な感想。松山からやってきた建築デザイナーは、『驚くことばかりの二日間のウォッチングでフィルムを五本も使った』と満足げに感想を述べていた。

海道シンポは、NHKからの取材を受け、六月七日（金）のモーニングワイド（午前六時より毎朝放送中）にて全国放送された。又、八西地域情報センター（CATV）も取材をすませており、関係者も楽しみにしている。



佐田岬の夕焼け
きれいですネエ。



御莊湾立干し網

御莊町 藤村 雄二

御莊町は、感動的な自然が豊富にあって、とても素敵なおところです。

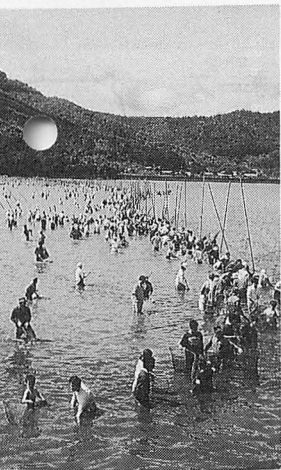
この町で、ゴールデンウィーク期間中の、一番干満の大きい日を選び「御莊湾立て干し網」を行っています。この行事は、御莊湾の片の浜と呼ばれる浅瀬の対岸を、約七百メートルの網で満潮時に仕切って、干潮を待ち、その中で跳んだり逃げまわる魚をタマや素手で獲るものです。

立て干し網は明治の中期ごろに始まり、ボラ、チヌ、カレイ、コチ、スズキ、コノシロ、エイなどが獲れています。最近では、入場者が多くなったことと、獲れる魚が少なくなったこともあり、ハマチ、鯛をたくさん放流しています。また、潮干狩りも楽しむことができます。あつて、この日は、朝早くから家族づれでにぎわい、遠くは香川県、徳島県からも入場者や見物客があり、その数は約一五、〇〇〇人となりました。入場者は、胸まで潮につかって魚を追いまわし

たり、タマ網を持って駆けまわる子供たちなどさまざまで、自然に親しみ、楽しく和やかな一日です。

今年の「御莊湾立て干し網」は、四月二十九日、みどりの日。前日の準備はすべてがOKだった。が、天気予報の降水確率が高かった。四月二十九日の朝、雨はなく晴れ間が見える。立て干し網を設置した漁協青年部、ふるさと市コーナーの商工会婦人部、青年部、たがやす会などのスタッフの顔からも笑顔が見えた。

立て干し網の苦労話なども書きたいところですが、御莊に来ていただいたときにお話することとして、今回は、立て干し網のトップ話をご紹介します。といたします。



●トップ話

『黒小父やんと』

立て干し網』

「立て干し」の木戸銭（入場料）

すらあ。

を取り、入場券を売っちゃったんが黒小父だす。裸で赤禪、体は日

木戸銭を黒小父やんに渡し、海にはいったんようあし。

焼けの赤銅色、頭は毛が無いのに、顔から足の先までヒゲ、ヒゲ、ヒゲ、だす。

はいたら、たまげたも何もあるかや、いきなり地面が動きだして、しりもちついたんよなし。なっしや

色が黒いけん黒小父かと思うちよつたら、本名が尾川九郎次（お

ろるか、海の中がぐらぐら動きよるんよ。よう見ると、おつとろつ

しゃ、これがたまるかや、大けな大けな魚だすらあ。おんだらびつくりして、いきなり大声で

よなし。黒小父やんは鉄の柄の大ヤスで、いきなりカレイの頭めがけて突きさしたんよなし。

「助けちゃんなれ〜」

はいたらカレイの大暴れなんよ、

と叫んだら、丁度いきにおった黒小父が、

片の浜が地震のように揺れとうなし。黒小父は、ヤスの柄を持った

「坊よ、そりゃあ昨日おらが沖から立て干しに追い込んだ御莊湾のカレイの主じゃあ、ちよつと待ちちよれ」。

まんまカレイに振られて、もんどり打ってころんだが、さすが黒小父、起き上がるとヤスの柄を持ってカレイを陸に向けて突き上げと

うなあし。

うなあし。

高らかに生活文化県宣言

愛媛県は、平成3年4月1日、全国初の「生活文化県宣言」を行いました。その主な内容を紹介します。

生活文化県宣言

瀬戸の海は、寛^{ゆる}かで広い。

石鎚の山は、凜^{りん}として高い。

瀬戸の海原は、愛媛の豊饒^{ほうじょう}を象徴する。

石鎚の高みは、伊予の創造を象徴する。

県民の役割は、

○ 生活に創意工夫をこらし、新しいライフスタイルをつくる。

○ 思いやりの心で美しいふるさと、心の通う社会をつくる。

○ 伝統文化を伝承し文化活動に参加する。

地域社会の役割は、

○ 創造的なコミュニティを展開する。

○ 地域社会との交流を深める。

企業と団体の役割は、

○ 質の高いサービスの開発・提供。

○ 職場の快適化を進める。

○ 地域社会の文化活動を支援する。

市町村の役割は、

○ 人材の発掘と活用。

○ 個性的なふるさとづくりを進める。

○ 快適な生活環境づくりを進める。

県の役割は、

○ 生活と文化とをリンクさせる。

○ 県民、地域社会、企業団体、市町村の活動を援助し先導する。

ゆとりあるいきいきとした暮らしと創造的な文化活動を展開しましょう。

愛媛県では、第二期生活文化県政スタートの今年、伊賀知事の公約としてまとめた“生活文化県政プラン21”の着実な実践と開かれた県政の推進に重点を置き、このほど、四月一日付けの組織改正を発表しました。

主なものは、次の表のとおりです。

改正内容	担当事務
生活文化総室の設置	第二期生活文化県政を強力に推進していくため、生活文化局を「生活文化総室」に改称して、生活文化県政の主管部とし、新たな生活文化県政を創造する部門及び開かれた県政を推進する部門を設置しました。
生涯学習課及び生涯学習センターの設置	生涯学習体制づくりに全庁を挙げて取り組むため、「生涯学習課」及び「生涯学習センター」を設置し、創造的で豊かな人づくりを進めます。
女性局（企画課・生活課）の設置	男女共同参加型社会推進構想の推進など、女性とくらしに関する施策を展開します。

改正内容	担当事務
広報公聴課の設置	生活文化県政に関する県民への情報提供、収集活動を一層強力に進めていきます。
県民総合相談プラザの設置	本庁に「県民総合相談プラザ」を、各地方局に「県民相談プラザ」を設置し、県政に対する県民の意見や要望、相談にお応えするとともに、県民の声を県政に反映されるなど、開かれた県政を展開します。
国際交流課の設置	国際化のための基盤整備や推進体制の整備を進め、ふるさと国際化構想を推進します。
調整振興部の企画調整部への改称	部名を変更するとともに、組織を拡充して、政策の企画立案、総

改正内容	担 当 事 務	政策調整課の設置			保健環境部廃棄物対策班の設置	土木部道路整備局の設置
		総合交通・通信対策課の設置	土地対策課の設置			
		合調整機能を強化しました。				
		「生活文化県政プラン21」に基づき、様々な施策の具体化を検討していきます。				
		ハイモビリティネットワークを構築し、均衡のとれたたくましい県土を形成するため、第二国土軸構想、交通企画、航空対策、交通運輸対策、高度情報通信対策などの施策を展開します。				
			地価上昇に対応して、土地対策を一層強化していきます。			
			廃棄物対策の調査研究の充実及び関係各機関との連絡調整を密にし、廃棄物対策を一層強力に推進します。			
			土木部高速交通対策局を「道路整備局」に発展させ、ここに道			

改正内容	担 当 事 務	中央農業改良普及所の設置		教育委員会事務局管理部 芸術・文化財室の文化財保護課への改称	中央農業改良普及所の設置
		路課を分割した「道路建設課」と「道路維持課」を置き、高速道路、産業道路、生活道路一体となった有機的な県内道路網の整備を図ります。			
		文化財保護係を増員して、史跡、名勝、天然記念物に対する対応を強化し、文化財保護行政を一層強力に進めます。			
		地方局所在の農業改良普及所を「中央農業改良普及所」に改称し、当該管内における農業改良普及及び生活改善指導の総合企画及び調整機能を付与し、国際経済環境の変化や産地間競争の激化などに対応する競争力のある農業の確立に努めます。			

アフオリズム PartⅣ

—— 利賀にて ——

トンネルを、越えても越えても空の果てまで雪国であった。

利賀は、おそろしく遠国であり、山国であり、雪国である。

1991年2月10日、久万山衆4人の目にしたものは、

私が思わず涙ぐんだ、利賀の「たたかい」であった。

1180人全村民による、一万食そば完売という雪中歓待劇であった。

身も心も凍りみる、ギリギリの処でしか咲かない聖戦であった。

ない「モノ」をこね上げ、歴史に刻み、結実させようと苦役する、

小さな村の巨きな造型、一つの村の大きな挑戦である。

行くがよかろう旅人よ、そして知るがよい。

あなたの村の営みが、利賀の村人の村曳きの前で、

何と卑小なアリギリスにすぎないことを。

そしてまず、利賀の吹雪の中の祭典に立つことだ。

これがムラおこしの原点だ。

久万高原塾 渡辺 浩二

今年も、梅雨がやってきました。うっとおしい日が続いています。みなさん、お元気ですか。

毎日、雨、雨では、気分も滅入りがちですが、もうすぐ暑い夏、夏に備えてがんばりましょう。

まちづくり活動の情報誌として、この「舞たうん」を隔月で発行しています。

内容についてのご意見や活動内容についての記事がありましたら、お気軽にお寄せください。

「舞・たうん」編集係

二人のM's、(毛利・安田)まで

〒七九〇 松山市道後一万一の二

(財)愛媛県まちづくり

総合センター

TEL

〇八九九(二五)五五五七

FAX

〇八九九(二五)六六八〇

発行・平成三年六月十五日

(財)愛媛県まちづくり

総合センター

えひめ地域づくり研究会議